

少林寺拳法競技 大会役員

名誉会長	宮崎県少林寺拳法連盟会長	矢野 文昭
名誉副会長	宮崎市長	戸敷 正
会 長	宮崎県高等学校体育連盟会長	内田 信昭
副 会 長	宮崎県高等学校体育連盟副会長	山口 博範
	々	戸高 慶三
	々	藤本 格
	々	濱崎 敦
	々	孝子 孝浩
	々 (専門部長)	長友 健祐
顧 問		萩尾 英治
		川越 良一 米丸麻貴生
	開催地区支部長	竹下弘一郎
参 与	宮崎県少林寺拳法連盟理事長	山本 康二
委 員 長	宮崎県高等学校体育連盟理事長	横山 美和
副委員長	少林寺拳法競技専門委員長	西川 和弘
	開催地支部理事長	稲垣 徳文
委 員	田中真二・川口真紀・高野茂嘉・小坂康弘・竹山信一郎	
	高橋 基治・緒方裕美・三浦武士・甲斐貴満・黒木良一	
	吉村高広・宮崎県少林寺拳法連盟審判員	

競 技 役 員

総務委員長	専門委員長 西川和弘
総務委員	延岡工業高校 選手補助員
競技・運営委員長	副専門委員長 高橋基治
競技・運営委員	各高校 選手補助員
設営委員長	専門委員 三浦 武士
設営委員	各高校 選手補助員
審判長	専門委員長 西川和弘
集計・記録委員	集計記録委員
設営補助員	延岡工業高校・都城工業高校補助員

役 割について

総務委員・・・大会運営全般
競技委員・・・抽選・点呼・誘導
運営委員・・・競技進行
記録委員・・・成績集約（集計・採点・表彰）
設営委員・・・コート作成・配置・計測

大 会 式 典 次 第

進行：副専門委員長

式 典 次 第	
1 開会宣言	専門委員長
2 挨拶	専門部長 (県連盟理事長)
3 優勝旗返還並びに 選手宣誓	昨年度優勝校主将
4 審判長注意 並びに 競技上の注意	専門委員長
5 競技開始	選手は、コートの外へ移動 準備をしてください。
6 結果発表	集計結果発表
7 表彰式	役員・専門委員より 3位まで表彰
8 閉会宣言	専門委員長
備 考	選手は、主将を先頭に各学校毎、縦帯整列する。 優勝旗は、正面本部席横に置く。 部旗は後ろに掲げてください。 (館内飲食禁止、ゴミは持ち帰ること)

進行プログラム

少林寺拳法競技

1 R (1 ラウンド)	
1	予選 「男子 組演武・単独演武 の部」
2 R (2 ラウンド)	
2	「女子 組演武・単独演武 の部」
休 憩	
3	決勝出場者発表 (各競技種目 上位3組)
3 R (3 ラウンド)	
4	女子・男子決勝 「団体演武の部」 男子・女子
	成績発表 上位3位まで表彰
	上位大会について (入賞しても基準点に達してない場合、上位大会の出場を見送ることがある)
5	閉会式・表彰式 (上位3位まで表彰)
6	片付け (作務)

(1) 男子 組演武 单独演武

組演武

NO	学校名	選手名	資格	主審	副1	副2	副3	副4	順位
1	延岡工業	椎葉大揮 岩切吾諭	初段 初段						
2	都城	渋田晃輝 前田琉慧	二段 二段						
3	都城工業	安藤恭太 野中一樹	二段 1級						
4	延岡工業	大戸海和 藤島康太郎	3級 3級						
5	都城工業	廣底龍聖 中山拳翔	3級 3級						
6	都城工業	村社光翼 藤本麗暖	2段 3級						
1	都城	橋口 匠 平野颯太	6級 6級						

单独演武

NO	学校名	選手名	主審	副1	副2	副3	副4	備考	順位
1	海洋	多田一樹	二段						
2	高城	加藤誠人	三段						
3	都城高専	吉永大翔	二段						
4	都城	川崎空人	二段						
5	延工	山本 将	初段						
6	都城	落合 翔	3級						
7	延工	木宮隆聡	1級						
8	延工	柳田朔哉	3級						
9	延工	高森和希	3級						

1	都工	久保田健治	見習						
2	都城	別府侑利	見習						

(2) 女子 組演武・単独演武

女子 組演武

NO	学校名	選手名	資格	主審	副1	副2	副3	副4	順位
1	延工	後藤 桜 山本 祐子	3級 3級						
2	都城	海老原紫月 川崎春陽	三段 二段						
3	延工	銀島朱李 松田萌愛	初段 初段						
4	都城	渋田陽向 小玉朋佳	二段 二段						

女子 単独演武

1	都城	尾谷未來	二段						
2	延岡工業	永田 真唯	初段						
3	延岡工業	栗田麻記子	初段						
4	都城西	立元日香里	二段						
5	延岡工業	姫田真花	3級						
6	都城	深港麻夢	3級						
7	延岡工業	丸山 遥	初段						

1	都 城	落合 絢香	6 級						
2	延岡工業	片伯部ひな た	見習						
3	延岡工業	伊藤 怜	見習						

(3) 団体演武

男子

☆チームの最高資格記載

番	学校名	選 手 名	資格	主審	副 1	副 2	副 3	副 4	順位
1	☆ 延岡工業	木宮隆聡 山本 将 大戸海和 藤島康太郎 高森和希 柳田朔哉	初段						
	補	椎葉大揮 岩切吾諭							
2	☆ 都城工業	安藤恭太 野中一樹 村社光翼 廣底龍聖 藤本麗暖 馬籠零士	二段						
	補	平原千裕 瀬戸口紫郎							

女子

☆チームの最高資格を記載

	学校名	選手名	資格	主審	副1	副2	副3	副4	順位
1	☆ 延岡工業	銀島朱李 粟田麻記子 松田萌愛 永田真唯 後藤 桜 山本祐子	初段						
	補	姫田真花 丸山 遙							
2	☆ 都城	海老原紫月 川崎春陽 深港麻夢 渋田陽向 小玉朋佳 尾谷未來	3段						
	補	落合絢香							

総 合 点 成 績 評 価 基 準

	1 位	2 位	3 位
単独演武男子	3 点	2 点	1 点
単独演武女子	3 点	2 点	1 点
組演武 男子	3 点	2 点	1 点
組演武 女子	3 点	2 点	1 点
団体演武	3 点	2 点	1 点
運用法	3 点	2 点	1 点

- * ただし、参加組数が 3 組に満たない場合は、1 位・・・参加組数
2 位・・・参加組数－1 とする。

留 意 事 項

- * 参加エントリーの減により優勝しても、基準点に達していない場合
上位大会への出場を見送る場合がある。
(専門部で協議の上、専門委員長が当該学校に通知)

- * 個人で活躍が著しい選手については、「個人総合優勝」として
表彰する。
(専門部で協議の上、専門委員長が個人に通知)

- * 規定演武は、九州総体留まりの種目でありインターハイには
つながらない。

栄 光 の 記 録 (高校総体)

回	年度	男子優勝校	女子優勝校	主将名	監督・顧問名	備考
1	17	都工		益留康平	西川和弘	高体連加盟
2	18	泉ヶ丘		今吉幸希	小玉忠宏・中山和也	
3	19	泉ヶ丘		今吉幸希	小玉忠宏・松下俊一	
4	20	泉ヶ丘		盛満昭彦	小玉忠宏・松下俊一	3年連続泉ヶ丘
5	21	都工		長田祐貴	黒木 瞬・有村耕二	
6	22	延工	都工	山本浩貴 森山 司	西川和弘 黒木 瞬・有村耕二	
7	23	都工	都工	吉本 稜	鳴海秀幸・中西典明	総合優勝都工
8	24	都工	都工	出口弘耀	鳴海秀幸・中西典明	総合優勝都工
9	25	都工	都工	梶原英明	鳴海秀幸・中西典明	3年連続都工
10	26	都工	延工	田上俊輝 柴田莉沙	鳴海秀幸・黒木良一 西川和弘・甲斐貴満	総合優勝都工
11	27	都工	延工	鳴海洸槻 直野明夏	鳴海秀幸・黒木良一 西川和弘・甲斐貴満	総合優勝都工
12	28	都工	延工	池田勇人 直野明夏	鳴海秀幸・黒木良一 西川和弘・甲斐貴満	総合優勝延工
13	29	延工	延工	中武健人 甲斐泉咲	西川和弘・甲斐貴満 同上	総合優勝延工
14	30					IH プレ大会
15	31					IH 本県開催

☆ H22年度より男女別に表記となる。

「少林寺拳法 剛柔一体の魅力」

(講習会資料より抜粋)

「私の父は、警察学校の教官で逮捕術を教えている。警察学校を出た若い警官が犯人逮捕の際に不用意に近づきすぎて刺される事件が起きた。父が、直接教えた警察官ではなかったが、大変心を痛めていたのがわかった。

そして何か、いい武道はないものかと悩んでいたとき、太田（大範士9段）さんが部署に赴任してこられて、これだと思ったようだ。

床の間に昇級の合格証書が飾ってあったので、中学生だった彼が笑ってしまった。

そこでかかってこいということになり、実際にやったらこてんぱんにやられた。

やがてその彼が少林寺拳法の門をたたくことになる。彼は、それまで他の武道をやってきたが、何か釈然としないものをいつも感じていた。勝つこと以外にもっと基本的に身につけておかなければならないことを、教えてもらえなかったからである。

しかし少林寺拳法は、まったく教え方が違っていた。はっきりしていた。

試合などすれば、当然けがをする。悪くすると障害者に。入門後すぐに鍛えようのない最大の急所、両眼と金的への攻撃方法を習うのだから。

人間の弱さを認めさせ、そして自分がそのように弱いところを持つ人間なら相手も同じように弱いところを持っていることを基本として教えている。

私は、こうゆう例をみたことがなかった。それゆえ弱い人間同士なんとか身を守る技術を鍛えようではないかという姿があったからだ。

技術は、剛柔一体であり、突かれても、蹴られても、握られても、ねじられてもいのように網羅されていた。理論的には可能なはずなのに実際にやってみると効かないことが多い。それなのに少林寺拳法は、理論と実践がぴったりきて魅力を感じた。格闘の最後は組み打ちになって捕らえ合い押さえつけ合いになることを知っていたからである。運用法（乱捕り）のように、殴り合い蹴り合いのみでは、解決の付かないことの方が多い。

剛柔一体の基本を学んでいたら、もの柔らかに制することができ、捕まれた腕をはずしたり、反対に相手の腕を捕まえて動けなくさせたり、傷つけず痛い目をみさせて反省を促すこともできる。また練習を積み重ねていくうちに精神的に変えられていく。

そこに少林寺拳法の価値があることがわかった。

本当の強さとは、柔軟さをいうのだ。

☆剛柔一体を表現した競技種目が、少林寺拳法が誇る組演武である。